

第2課 「ペリシテ時代のメッセンジャーサムエル」 (Iサム 3:1-19)

神様のみことばが注がれると、‘無し’が‘有り’になり、‘nothing’が‘存在’になるのです。みことばは神であり、いのちの根源です。ハンナ（女性、教会）が真の新郎であるイエス・キリストと結びついて生命が誕生しました。そして生まれたサムエル。

サムエルはまだ主を知らなかったとき、主のことばも示されなかったときに彼に神様が訪ねて来られたのです(7-8節)。サムエルのしたことは何もありません。そして彼に訪ねて来てくださったみことばがサムエルの人生と口を通してそのまま伝えられることに預言者として使われるようになったのです(19節)。それがその時代に働いた神様の方法でした。やはりイエス・キリストの模型としての人生を生きるのです。

エゼキエル 3:3-4

そして言われた。「人の子よ。わたしがあなたに与えるこの巻物を食べ、それで腹を満たせ。」

私がそれを食べると、それは口の中で蜜のように甘かった。その方はまた「人の子よ。さ

あ、イスラエルの家の行き、わたしのことばを持って彼らにかたれ。